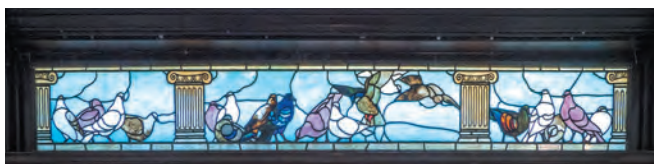


# 鳩山会館

応接間やサンルームへと繋がる食堂



▲玄関上部

大階段踊り場▶

洋館の随所に、小川三知の手によるステンドグラスがはめ込まれている



建物の内外に「鳩」の意匠が配される

**音** 羽御殿とも称される鳩山会館。この建物は、自由民主党初代総裁として知られる鳩山一郎の邸宅として、大正13年（1924年）に完成する。

設計したのは、明治生命館などで知られる大正・昭和初期を代表する建築家、岡田信一郎。岡田と鳩山は、旧制中学からの竹馬の友だったという。

鳩山会館は、当時最先端であった鉄筋コンクリート工法でつくられている。鉄筋コ





#### DATA

名称 鳩山会館  
所在地 東京都文京区音羽1-7-1  
完成 大正13年  
設計者 岡田信一郎

ンクリートの躯体にタイルや人造石が貼られたイギリス風の外観が特徴である。

建物1階には食堂、居間、応接間が並び、各部屋を分ける扉をすべて開放することで、まるで和室の続き間のように一間として使用することが可能である。

洋風建築でありながら、和の工夫も取り入れているところが岡田の遊び心ともいわれている。

同時に、各部屋とつながるサンルームと合わせ、会合やパーティを開くための大空間が設けられることが、政治家の邸宅にとってもふさわしいものだった。

窓の随所には、大正から昭和にかけて活躍した、日本のステンドグラス作家の先駆けといわれる小川三知の作品が施されている。特に、大階段の踊り場に配された法隆寺の五重塔に鳩が舞う作品は圧巻だ。

また洋館の玄関上部には、鳩をモチーフとした横に細長いステンドグラスがはめられている。ステンドグラスだけではなく、建物の内外に「鳩」の意匠が配されているのもユニークだ。

サンルームに面した英国式庭園では、90種160株ものバラが育てられている。初夏と秋には、大輪の花が咲き誇り、幻想的な景色が広がる。

空襲による損害や老朽化が進んでいたが、平成に入り大修繕が行なわれ、平成8年（1996年）、往年の輝きを取り戻し、公開されるに至る。